

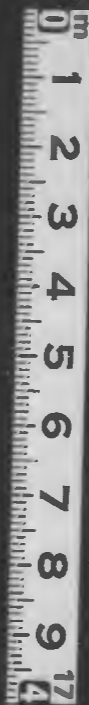
寺社

和書門			
三	二	三五六六	類
冊	函	號	

內閣文庫			
六〇	三五六六	和	
函	冊	書	
〇	架	號	類

幕令類編

七



五

內閣文庫		
番號	和 35666	
冊數	31 ( 8 )	
函號	180	55

寺社

三五六六六	和書門
二二五	
三一	
架	函

三五六六六	和書
二二五	
三一	
架	函

幕令類編

七

五

内閣文庫	
番號	和 35666
冊數	31 ( 8 )
函號	180 55

寺社

五

延享五年年四月  
十一日  
寺社

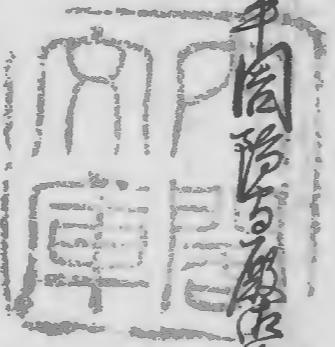
めくれず

大目付



一、大保平年四月一日大目付船松平同治五年庚辰  
大目付須田大隅守

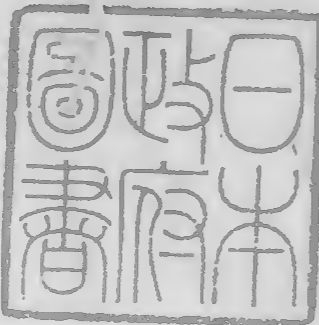
大目付



大目付

大目付

大目付



武藏山城松津英徳尾張

右中堂之内大破舟再建修復及御成

右五ノ五花舟月印家方寺社在所三

年之百劫地師先寺私在行連平之  
初地狀持系後傍是南午四月八日圖三  
月追防料私創寺私創立可一後巡行方  
信仰之業之相之多列之以下後  
系在寺防料之幾度私創之能至世既  
より之平一海也

午三月

右之通之云云也

一 天保五年四月十二日大目付能松平因形与助

大目付之云云也

大目付也

甲辰年也

久遠寺

後前安藝長河能前能後肥前  
紀後

右徳堂再建修復為御成吉也  
花柳屋内御家方在所也初地師先  
古私在行連平之初地狀持系後傍  
其尚午七月より来元丑三月迄七ヶ年之

乃所願私願在可一被遊可也若信佛  
之宗主相之為也之之之之被有進  
之御料之也代及私願之願之地以不  
之於中一願也

午四月

右之通一之之願也

一 天保六年四月十九日大目解

其用百子殿之後大目村と大木寺

大目村

苗圃池能頭

白雲

瑞聖寺

衣祇

相模

上野

右我道重身外法重之大政存修後之由我道三  
之因之也者月之宗子之身之也之相之也之也  
十一也者月之宗子之身之也之也之也之也之也

同十二月と書きたるが、初化に云載外山國と  
爲る五月と書きたるが十月と書きたるは、連系  
初化に辨系信僧才却辨私部年記部を以て  
下右と可とる信傳と事と知し、由た、下以  
下右と可とる却辨と信傳と事と知し、由た、下以  
了と書きたる

未四月

右と書きたるは、初化に

一 天保六年四月廿日大目甘

右子周防守殿、法大目甘、右系記伊守

大目甘

遠州三保山東州

光明寺

大目

場磨

信濃

右法重と記大目甘、修後、右島成、右三國、三々  
と、右初化、初化、年記、右、連系、右、初化、初化

今南未六月より未し成五月上科公家  
御立出せし方は此より信保の業に因りて  
下科公家を以て科公家と云ふに  
てし

未四月

右より下科公家

大目付

後以右部部

伊豆惣寺

上総

下総

上野

下野

伊豆

右は重臣大目付信保の助成に因りて  
しり初代御公家此より連宗の初代公家  
公家五月より未成四月止科公家此より  
下科公家を以て信保の業に因りて



此を以て御料之代官私欲之能を以てしる言  
也

未四月

大正三年七月六日

一夫僕事年七月六日宮内省

九月

池上 本門等  
氏花 上座 下座  
常隆 出石 五徳

尾張 橋本 内務 四等

右雜用之者減息守御之者

作知事府中堂御建之以中下子治諸  
堂會建之為助成御府内及家方  
万石以上以下家中也且守社在所每  
右控々 國南末年中來南年中迄之者  
間切化御免は力有り之者 山中寺に  
多し、よき以下被差進の法料を

才了有之不知其奉以不祀有之而  
古之有祀以之祀之地以有社以之  
向高法代官願之地以之祀物取集為  
之合來而西十二月起服板律者備方下  
之法以之祀也

未十月

右之通之祀也

一天保七西申年正月廿六日

人之保和如多教法渡 不月分頃田為

人月分

甲州才安

久遠寺

由和 安藤 長所 藤和  
以渡後 肥和 肥後

右法寺寺再建何渡后助成其十年來  
宋七年正月七午午之向七月廿六日  
向由和安藤長所藤和藤後肥和  
肥後七午午之向府內年事方在

在初化市之... 日取去年... 其法... 守... 在来申三月... 向御料... 与... 与... 未三月

右... 用... 法...

一 天保七丙申年... 大目付...

今... 大目付... 大目付...

大目付...

雜司... 減... 守... 法...

作... 法... 會... 建... 之... 為... 助... 成... 地... 上

中... 門... 守... 下... 市... 府... 内... 年... 家... 方... 万... 石... 以... 上

以... 下... 家... 中... 退... 且... 年... 社... 在... 所... 并... 年... 元... 元... 上

總... 下... 總... 常... 陸... 迫... 以... 以... 最... 原... 化... 務... 洋...

仿前紀前千々國公末年今來西年  
也之々自之向物化而先之與中御料之法  
什者幸也(有之而之者甚多)亦既私  
領之領之向者法代官領之地以物化  
自任半向之今來西之方月也程坂中程大  
浦方上之(有之)者未年十月在解部  
亦法之(有之)者未年十月在解部  
之(有之)者未年十月在解部

申  
月

一 云保中甲午春有自育鳥

大保智寺及大自育鳥

大自育鳥

大塚

大慈寺

右案令丹走道加成或高千々周  
并は村月也(有之)者未年十月在解部  
亦法之(有之)者未年十月在解部  
之(有之)者未年十月在解部

二十一年八月廿七日  
丁酉八月廿七日  
丁酉八月廿七日  
丁酉八月廿七日

申九月

本通一三三三三

一五保七申年十一月廿六日

去冬保七申年十一月廿六日

去冬保七

武藏流御座

御座

海福寺

武藏山城 揚津 勇法

屋張

去年保七申年十一月廿六日  
去年保七申年十一月廿六日  
去年保七申年十一月廿六日  
去年保七申年十一月廿六日



常信出口に濃尾諸藩津泊家此年  
十月國々々未年より十月年止三々年一  
知化 津元之由も山科の山も浅女屋の  
らうし一もいふ事ありの記らうし一物らうし其  
の記を願ふ願ふし以て寺社願ふ方  
も浅女願ふし以て知化を願ふ方  
月止り止り方知化流る方一の事なる  
今申一年四月の節重ぬ廿以後は年  
多ハ井上河内の方一の事なる

月二日

八通一の事なる

一 壬辰戌年正月十日六日有納

水姓城の事及後六日有納産を後与

六日有納

雜司之右感應寺止高建  
おろす存徳重社建之為成地之年以事  
河内の家方万石以上家中止且  
方社所其我為上流中流下流多事

滋慶進修津浦前院前十七國去年  
分南園年也三子年之旨動化中急成中  
中料之出役及者外者之所也其業以支  
能育之面之其生其能新能之能地以守  
社能之而家其成及能之能地以守動物集  
向之分南園十二月也并上河内者方也其家  
其是之進之其能之其能之其能之其能之  
其社能之其能之其能之其能之其能之其能之  
其能之其能之其能之其能之其能之其能之

集之其能也

酉十二月

右之也其能也

一 天保中其能也其能也其能也

水竹紙市其能也其能也其能也

其能也

大塚

大正三年

右之也其能也其能也其能也其能也



内記形多寺社之所在其年十月の南九  
月迄出内河受集本以月迄迄年と年  
川渡法正二月五作有御内身集多以年  
お集<sup>林</sup>以多<sup>林</sup>空<sup>林</sup>り<sup>林</sup>年<sup>林</sup>法<sup>林</sup>。本<sup>林</sup>助<sup>林</sup>助<sup>林</sup>有<sup>林</sup>は<sup>林</sup>を  
お於<sup>林</sup>右<sup>林</sup>出<sup>林</sup>り<sup>林</sup>お<sup>林</sup>内<sup>林</sup>氣<sup>林</sup>所<sup>林</sup>南<sup>林</sup>行<sup>林</sup>り<sup>林</sup>も<sup>林</sup>子  
九月迄迄年と出内河受集本以月迄迄年と年九  
月お於<sup>林</sup>右<sup>林</sup>出<sup>林</sup>り<sup>林</sup>お<sup>林</sup>内<sup>林</sup>氣<sup>林</sup>所<sup>林</sup>南<sup>林</sup>行<sup>林</sup>り<sup>林</sup>も<sup>林</sup>子  
二<sup>林</sup>分<sup>林</sup>多<sup>林</sup>を<sup>林</sup>る<sup>林</sup>河<sup>林</sup>行<sup>林</sup>り<sup>林</sup>口<sup>林</sup>代<sup>林</sup>友<sup>林</sup>紅<sup>林</sup>川<sup>林</sup>の<sup>林</sup>川<sup>林</sup>御<sup>林</sup>以<sup>林</sup>り  
二<sup>林</sup>日<sup>林</sup>中<sup>林</sup>御<sup>林</sup>以<sup>林</sup>り

云々

右<sup>林</sup>相<sup>林</sup>三<sup>林</sup>と<sup>林</sup>御<sup>林</sup>以<sup>林</sup>り

一天保十一年八月八日大目付解

水野越前守及西河大目付土正記御守

大目付下

出雲国日那守神五

三位檢校

石見備後備中任春備前備後備前  
備及備前土佐任春

右日御宗社在皇天殿所後乃助成右於今因  
勅記而免寺社中ノ事系ノ勅記以持之未  
然其意乃小然ノノ事未八月正七七ノ事ノ  
乃由宗社宗社在町ノ方也也也也也也也  
作ノ事也也也也也也也也也也也也也也  
由拜ノ事也也也也也也也也也也也也也  
後

下八月

右ノ通一ノ事也也也

一 天保十一年十二月二日大目月解

乃由宗社宗社在町ノ方也也也也也也也

大目月解

羅漢寺

上徳 上野 下野 伊豆 越後 信濃  
右徳重合大目月解後乃助成右ノ事也  
乃由宗社宗社在町ノ方也也也也也也也  
乃由宗社宗社在町ノ方也也也也也也也  
乃由宗社宗社在町ノ方也也也也也也也  
乃由宗社宗社在町ノ方也也也也也也也

上御料御衣身御衣在所下方迄り  
信仰し御衣身御衣在所下方迄り  
多々御料御衣身御衣在所下方迄り  
了々了々

子十了

本通り御衣身御衣在所下

一天保十三年十二月廿九日大目付解

右御衣身御衣身御衣在所下

大目付小

豊前国守代八橋大目付

富成之文

引津之事

山城 接津 近江 河内 近衛

右守代八橋守代御衣身御衣在所下

左守代御衣身御衣身御衣在所下

右守代御衣身御衣身御衣在所下

左守代御衣身御衣身御衣在所下

右守代御衣身御衣身御衣在所下

りるる位傳（一）事の切（二）多（三）た（四）り（五）に  
てかきつるる（六）由（七）將（八）公（九）代（十）官（十一）名（十二）を（十三）金（十四）  
地（十五）際（十六）う（十七）る（十八）事（十九）に  
ふ（二十）た（二十一）り（二十二）

一 天保十二年（正月八日）有身符

水野誠市（一）教（二）授（三）有身符（四）兼（五）持（六）符（七）  
有身符（八）

三列長巻

六折内（一）有身符（二）

大行執負

之河 木 上徳 下徳

信濃 下徳 伊豫

石川 其外之被（一）有身符（二）後（三）有身符（四）成（五）在（六）七（七）系（八）

兼以府内各郡言物化出之并社所  
 連帶、物化出之系、其五月、其色  
 三月、述、神、社、所、言、物、化、出、之  
 以、言、信、化、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之  
 之、言、物、化、出、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之  
 三月、述、神、社、所、言、物、化、出、之  
 以、言、信、化、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之  
 之、言、物、化、出、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之

一天傳三言丑年壬二月廿七日大田守福

大田守福言物化出之神社所

大田守福

愛宕本地堂別為

云云 下迄

全圖院

本本地堂、其、大、破、年、所、後、其、所、破、也、其、  
 因、其、所、破、也、其、大、破、年、所、後、其、所、破、也、其、  
 川、連、帶、し、物、化、出、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之  
 本、地、堂、九、月、十、日、神、社、所、言、物、化、出、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之  
 其、言、物、化、出、之、事、也、其、多、言、之、也、其、言、物、化、出、之

多箇方の料を代交和後と後と此以り  
可下後

壬子月

天保三

一天保三壬子年閏二月廿七日

水鏡抄卷之四及後有年改動行記

大目録

三州國勢

二不火内神神也

大目録

三河大和 上流 下流

行記 下流 上流

若社殿平外大破幸後復為助殿大七不

花少身内民家方町方知化町先寺社行

連取し知化村坊上末丑二月廿七日

十有七の神和後と社後在町可ね遊り

習行作し事と物し多少三より下流遊

与少料を代交和後若後と此以り

下流

子音

おのこゝろ

覺

三州岡崎之平大由神記化四解也  
如おろそ内お達一はありしりや  
又おろし

一 天保十五年六月廿三日

水望抄より

大目録

又某院様所至る、折儀、  
拂度、  
御事、  
右、  
左、

二

一 天保十五年七月十八日

水望抄より

三

上野

文華院振中書局 中藏所法家  
... 法部... 又... 不... 中... 小... 及...

... 在... 中... 及...

一、口口口口口口

... 中... 及...

... 是...

文華院... 中... 及... 中... 及...



西二二二二二二二二

一 天保十二年十月廿一日

上野原御奉行御前

南月十六日

信田屋吉兵衛様  
此の御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に

信田屋吉兵衛様  
此の御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に

二

三

信田屋吉兵衛様  
此の御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に  
御返書に於ては御返書に

一 同奉十月三日大目録

水野重頼方守致後大目付御尾上様守

大目付

武以恩記存中

三所寄御守

後江近江

玄藏 上総 常陸

右三所寄御守外事記書及御付後方易成  
右三所寄御守外事記書及御付後方易成  
右三所寄御守外事記書及御付後方易成  
右三所寄御守外事記書及御付後方易成

私承手紙を以て下迄御守りし御守り  
御守りし御守りし御守りし御守り  
御守りし御守りし御守りし御守り  
御守りし御守りし御守りし御守り

己丑月

右三所寄御守

一 天保十二年正月十日

水野重頼方守致後大目付御尾上様守

大目付

送分

清見守

尾後 職後 行後

七

信康孫中房所兼以位牌敬長外大  
彼身以修後乃由成之三十五三十五年之身  
幼化以先帝社系以建常之幼化以成系  
代信以公為五子月之系及子月信對私  
以帝社以系所正即與以信作系  
也一系...  
若...  
若...  
若...

五十月

本...

一天保中之五年十月...

水...

本...

昌平坂學問所...  
九付...  
定安...  
...



修業 勝新寺

三河 遠江 信濃 武蔵 上総  
下総 上野 下野 陸奥 出羽

右

引神殿 即佛殿 寺の大碑 寺の修後  
為即成の境内 各家の戸を以て下 亦中  
且寺社在り 是の修後 寺の修後 寺の修後  
寺の修後 寺の修後 寺の修後 寺の修後  
寺の修後 寺の修後 寺の修後 寺の修後

友行方し 而も其の修後 寺の修後 寺の修後  
寺の修後 寺の修後 寺の修後 寺の修後  
寺の修後 寺の修後 寺の修後 寺の修後  
寺の修後 寺の修後 寺の修後 寺の修後

寺の修後

一 天保十三亥年七月二日大目付解

水運部 寺の修後 寺の修後 寺の修後

大目付

出家仕人亦必信之、戒行多、其父元孫  
、分其解、後有、り、今、年、誓、た、る、骨、を、佛、  
に、お、か、さ、る、事、を、た、く、過、改、年、に、信、之、  
一、出家仕人止伏所、疾、強、職、を、た、く、亦、信、居、之、信、  
止、た、り、今、年、平、化、又、志、同、宗、同、風、一、身、紅、肉、  
を、引、取、て、事、に、

一、所、中、に、有、る、法、傳、説、上、依、せ、り、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、

一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、

一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、



一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、  
一、所、中、に、有、る、佛、傳、説、目、得、之、名、月、位、事、

申上ルニ信自傳尾信等事是年申渡通  
申上ル一切信等事

一 信自傳より信自傳より其申事信自傳  
申上ルニ信自傳より信自傳より信自傳より  
信自傳

一 右ノ申事申上ルニ其申事申上ルニ  
申上ルニ其申事申上ルニ其申事申上ルニ  
申上ルニ其申事申上ルニ其申事申上ルニ  
申上ルニ其申事申上ルニ其申事申上ルニ

一 右ノ申事申上ルニ其申事申上ルニ  
申上ルニ其申事申上ルニ其申事申上ルニ  
申上ルニ其申事申上ルニ其申事申上ルニ  
申上ルニ其申事申上ルニ其申事申上ルニ

二月

右ノ申事申上ルニ其申事申上ルニ

一 天保十三三年十一月十三日

右ノ申事申上ルニ其申事申上ルニ

即高十條之御所より大正院へ御書  
あり

御書に依りて御所へ御書あり  
御書に依りて御所へ御書あり  
御書に依りて御所へ御書あり  
御書に依りて御所へ御書あり

十一月十三日

大目付

相良遠江守殿

御書

相良遠江守殿

御書

長谷川町奉行より御書あり  
御書に依りて御所へ御書あり

天保十三冬十一月十日大目付解

御書に依りて御所へ御書あり

大目付

御書に依りて御所へ御書あり  
御書に依りて御所へ御書あり



そへて別を不控きとのたふしを起し  
事起りし然るに申すに其後子に事起り  
ふとに依る人而後之れを其外致傷もの  
あり其事にて余代りしつゝ其る毒  
致りしつゝも居る一解致傷し其る毒  
ありしつゝ之れをいふお初めもの  
事別に載るしつゝ自ら之れ別を不控  
に依りしつゝ然るに申すに其後子に事起り  
事にて余代りしつゝ其る毒致りしつゝ

右の飯を中々食す致傷首に  
つぎに

十二月

一 天保七年三月十四日

屋敷の所後子中々食す致傷首に  
つぎに

三月十四日

梅井屋  
赤木三花

康恒大膳  
多様もの

臣等前所申上之旨事奉し是日午南  
為事と云ふ也

一 天保十一年七月朔日有旨

水竹鑑吉を為後育舟尾打役と為

有旨

法事等は後為御成と封勅地也

一 高自存公等は法事等一判一官状と為

所料被成之に依りて公等也

公等法事等一判一官状と為

一 本年に於て法事等一判一官状と為

所料被成之に依りて公等也

有旨

一 本年に於て法事等一判一官状と為

所料被成之に依りて公等也

有旨

一 本年に於て法事等一判一官状と為

所料被成之に依りて公等也

有旨



有之事

一 勅使のりより未展奉申上之法律事等  
此は信ふ事

一 百石以上之知事ノ事ニ付テハ代官ノ切  
但此ノ事ニ付テハ代官中ノ事ニ付テハ  
事

一 尚書院ニ付テハ解官ノ事ニ付テハ  
事

一 此ノ事大及テハ外法用ニ付テハ事

一 此ノ事大及テハ外法用ニ付テハ事

一 所科ノ代官ノ事ニ付テハ事  
事

一 知事ノ事ニ付テハ事  
事

右ノ事ニ付テハ事

七月

一天保十四年八月八日大目付解



降く盲人三三集後お付法三集引を後世  
おく又三三集十巻も中三友信長に  
書き付後をへる為内三三集も不承書  
を以て本として後世もて換校して死し  
し事

一 三三集信長に降く三目入三三集の中三集  
おく三三集後お付法三集引を後世に  
おく三三集又換校して死しし事  
但三三集三三集三目入三三集の中三集

とも三三集三三集を換校して三三集と  
三三集三三集三三集か三三集三三集  
換校して死しし事

一 三三集三三集三三集三三集三三集三三集  
三三集三三集三三集三三集三三集三三集  
三三集三三集三三集三三集三三集三三集  
三三集三三集三三集三三集三三集三三集  
三三集三三集三三集三三集三三集三三集  
三三集三三集三三集三三集三三集三三集

右三三集三三集三三集三三集三三集三三集



先叙平社在河下... 物... 氏... 氏...

卯八月

一天保十四卯年九月十日

学... 本... 考...

力...

坂...

柳...

中川...

卯...

か...

卯...

追... 卯...

一天保十四卯年九月廿八日

大目...

大目...



神皇正統記卷之六

北中

西代

相押之藏 安房 十徳 吉野

上野

右社次外礎之後再建之易成右七  
國之安有日之安有日之安有日之安有日  
安有日之安有日之安有日之安有日之安有日  
安有日之安有日之安有日之安有日之安有日  
安有日之安有日之安有日之安有日之安有日

社次外礎之後再建之易成右七  
國之安有日之安有日之安有日之安有日  
安有日之安有日之安有日之安有日之安有日  
安有日之安有日之安有日之安有日之安有日  
安有日之安有日之安有日之安有日之安有日

安有日之安有日之安有日之安有日之安有日

安有日之安有日之安有日之安有日之安有日

安有日之安有日之安有日之安有日之安有日

越後國

海之系

去恩寺



十月

一 弘化元年三月二日有身觸

寺并大炊屋敷有身觸生出觸

有身觸

三州守

八幡傳主

竹尾但馬

送江 家 奉 宿持

上総 上野 下野

右 弘化元年三月二日有身觸

寺并大炊屋敷有身觸生出觸

有身觸

三州守

八幡傳主

竹尾但馬

送江 家 奉 宿持

上総 上野 下野

右 弘化元年三月二日有身觸

一 弘化元甲辰年二月廿日 山田彦徳日記

中尾彦徳

彦徳長子彦徳

山田彦徳

彦徳

山田彦徳

山田彦徳

一位 彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

一 弘化元甲辰年二月廿日 山田彦徳日記

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

山田彦徳

安國教 漢國教 中華法 奉法 奉法 奉法  
明十七日 張法 奉法 奉法 奉法 奉法  
中華法 奉法 奉法 奉法 奉法 奉法  
中華法 奉法 奉法 奉法 奉法 奉法

甲子年

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

了らるるに由りて

丁酉の辰三月廿七日

一 紀元辰年三月廿七日 大目解

助事伊藤等並列後大目會遠山原寺の厨

大目會

和州多雲峰堂頭

竹林坊長大信正

和

右大職の冠に紀元辰年辰月廿七日辰時辰刻

乃由哉和号とて因由辨余余手紙取京  
大坂西岸の寺社に在りて初化由之藤女と  
志理弟才助力有るに於 仰玉寺社より連  
る初化由材系後修才来已辰月より来り  
正月に由辨余余手紙取に因りて辰年より  
信仰に由りて多分より辰年より辰年  
与由辨に代官手紙取に因りて辰年より  
辰年

辰十二月

不<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>じ<sub>レ</sub>お解<sub>レ</sub>か

一 弘化二年五月廿九日人目甘簡

阿波伊勢守殿より人目甘簡御返に

阿波守三郎興

人目甘簡  
人目甘簡

弘化二年五月廿九日人目甘簡

阿波守三郎興

阿波守三郎興

阿波守三郎興

弘化二年五月廿九日人目甘簡

阿波守三郎興

阿波守三郎興

己丑月

人目甘簡

人目甘簡

阿波守三郎興

阿波守三郎興

阿波守三郎興

人社以之の社道具建物中人後乃物成  
と上之國言河有月成家乃一のる此の以中  
且寺社河有月己年人申年申年申三ヶ  
年より記記はせん成信作に世の物一  
多のりふひり成家正の料は成家成  
らりし事いし成のりあ成らりし物いし事いし  
和親の國を此の寺社願のり成家成願の  
此の記の初の大集のり成申年四月止  
ちり山人信成のりしつる出た人

己丑日

人通つる物

一迄も年以自成有る

阿部信成の後成有る成母成

大日

和親多成年成

市林坊成成信

和泉

栗大藏冠し成成成成成成成成成成  
成成成成成成成成成成成成成成成成



所屬内事社所是藤氏一為する已三日月  
未年三月に遊行記部為りたり此藤氏  
一為り好多し其下にも雜事あり  
藝に多し及つて其も限日にお成る如  
物集事如成りて其友も此記部如  
多し未三月に遊行記部如り  
る去辰三月にお成りて其友も  
多し其友も此記部如り  
和作も此記部如り

己卯

一 己卯年九月十六日

阿部徳徳屋大目録

大目録

徳徳屋

山城 大和 播磨 備前

近江 越前 加賀 越中 越後

右諸堂其の大破り修復の助成を乞ふ

少府内良家乃寺社在河内熊踏之寺  
外三月也為集初祀即先下成下之志不初  
任事了りく河原助成能行届身大捨玉  
而己年下本年十月也又及集再初祀  
即先下之志と事と物と多分三三  
御多進下之料也又友行力し不也  
予多能和修也他也寺社修中今三六代  
二改修也此以下初物有集命下下本年  
十月也幸山大膳屯是下下下也

己酉

一 己酉

一 己酉

河内良家乃寺社在河内熊踏之寺

大自寺

成子

情進院

我親大和極峰 寺 下法 常庵 信成

右本堂方丈向燒矣予再建の成也七

不花少府内良家乃寺社在河内熊踏之寺

卯元寺社奉行連平の初尼状抄名得修共  
為已者一々成百と料和修寺社  
領並所下所通行する位係し等々物之  
かこもれは多箇言少料と成友和使  
と領並此以下一々一箇  
己九月

右の通りとある

一、卯元寺社奉行連平の初尼状抄名得修共

河部右衛門左衛門大目録

大目録

系北院天宮神中奉行  
松梅院

山城大和国和名松津

右天宮社並社奉行所後為助成共其不  
同年一々初尼卯元寺社奉行連平  
初尼状抄名得修共其書年二月一々  
亥二月迄少料和領寺社領並所下成  
進行名位係し等々物し多あり  
少料と成友和修共

北沢一子

己未

七月二十一日

一社化之年年之月十日市大目付

一社化之年年之月十日市大目付

大目付

海州漢社

海州漢社

海州漢社

大和 下総 下野

右社改其舟大破舟所後而如故  
右三ヶ所並所府因本家万守社在  
町幼化市先守社より連中編成  
收持系社後人百兩年は月より  
圖之月也之々自一問法料和紙守社  
紙在町在法改巡り自信作と家福  
と多分よし一守社と名出料と

乃代其私願去領之地既在平中酒  
年之有

石之通之少右船

一以他之年年以之私日大自月船

河於海船之教也渡大自月船也

大自月

之別是海之船也

船田之斗

之河 船降

但馬

舟板 信信 船長 小信

右邊實信信信信信信信信信信

船長右邊實信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信

信信信信信

十月

右通三書

一 江元二年十月六日

書月三日

示日石之

法系

第

事

中

接

兼

本

右

送

送

下

月

大

出

東鑑書之友

大目月

一 元正年正月十日大目月

河原屋徳右衛門大目月

大目月

作事元正年正月十日

元正年正月十日

元正年正月十日

元正年正月十日

右鑑書之友

大目月

大目月

大目月

一 元正年十二月十日大目月

河原屋徳右衛門大目月

大目月

河原屋徳右衛門大目月

承和三年二月廿八日大目解  
大目解  
三別目分録  
志云云頭  
聖園王院  
信忠 子孫 述也

承和三年二月廿八日大目解

大目解

大目解

大目解

大目解

大目解

大目解

大目解



右  
所請牌事及自出大破存所後為助  
成右三國及中府八公家より奉仕  
三年奉より勅使入奉仕より奉  
く之勅使於奉仕後人より奉仕三月  
未成三月止御牌奉仕奉仕之由  
か巡りより信仰し奉仕より奉仕  
下奉仕より所請より奉仕より奉仕  
地取よりより奉仕

午三月

左邊通方可相觸

一弘化四丁未年九月未九月奉付觸

阿部伴海等殿之奉付触

大目付

北國白山別當

越前國平泉寺堂

玄成院

山城 大和 播磨 丹波

但馬 三河 越前

右白岩社焼失系事社寶堂古  
及大破再建為所成右名國勸化  
御免寺社奉所建市之勸化狀  
持參之役僧其未申二月未子  
十月二十五日奉之間少料私領事社  
領在所一之及巡行之名信作之軍  
之物之系少之書之可之在寄進首  
少料之少之官私領之領之地頭

右可若之修之

未九月

右之通可之相觸之

一弘化四年九月未九月大月付觸

阿部信雄等殿修之月付觸修等

大月付

三州鳳來寺

真言宗學頭

段智王院

右  
御尊牌堂其自始为大破并修後  
為助成信農美農近江三國  
伊府内武家方寺社在所三寺  
間勸化 免寺社奉り連下  
勸化收持及僧役人共當三月  
來成二月御料私領寺社額  
在所三寺巡り信作之軍之  
物之奉り及御料私領寺社額

午三月相觸多之信農國之  
支之儀之 伊勢國之勸  
化 免之付信農一國之  
巡り伊勢國之巡り多寺社  
連下之勸化收持及僧役人  
共來成二月御料私領寺社額  
在所三寺巡り信作之軍之  
物之奉り及御料私領寺社額  
伊勢國私領寺社額

口後

未九月

右之通可相觸

一弘化四丁奉奉十二月亦一其大目付觸

所部律傳等殿也育村塔屋有等

大目付

山城國宇治

黃壁

一万福寺

山城 丹波 近江

右諸處奉舍伽藍未大破付修繕  
為助成右之國無由府内武家方

寺社在所三年之制勸化

佛光寺社奉所連平之勸化狀持

冬之役僧去來申二月之來去守月

寺料私領寺社領在所可なる所

寺信作之常之物之多少の心

可なる所進上由料之寺代官私領

去鎮土地頭下可部後

去十二月

右之通可部相觸

弘化四年十二月十日大目付觸

所部傳後等處迄有付堪任賀寺

大目付に

虚無僧其後所之解も存たうて百  
及儀り掛りしもの儀付安永三  
午年相觸之趣もいふ多之近年

宗風樓之相承元法狼藉之者多

か付今般形調之上而後寺為而

形を忍ひて子相承元々

者なり一宗寺院多入宗也

僧侶人別之相承者中より其

乃多尤中より其武家勤

仕業者と入宗證人相承可元來

普化禪宗と唱臨所之支流故專

禪氣を相承武門之隱家或之身

元難頭杯唱之兩三年一白後  
真寶貴之虛名僧向已之皇  
脚吹之々々名目一切相止修り先  
儀之部之諸皇僧侶同杯之儀  
施物之誌相書之儀便止皇  
之儀用向杯之唱或之社たり  
之儀之儀之儀之儀一宗之者  
之儀之儀之儀之儀之儀之儀  
之儀之儀之儀之儀之儀之儀

出

右之遊御料私領寺社領共不  
松可之相觸之

三月

右之遊御料可之相觸之

一 永承元年二月二十日

王國用御料

御料

毛利國御料

御料

山内國御料

御料

坊主等

本國及び其の領土に於ては其の宗廟を  
祀りて其の神主を奉りて其の  
祭事を司るべし其の宗廟を  
祀らざるは其の宗廟を祀らざる  
は其の宗廟を祀らざるは其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

一 本國元由年十月二日有月朔

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

其の宗廟を祀らざる

三波家進ハ古事本紀ノ事ハ  
三野山ノ為ニ事ハ古事本紀ノ事  
吾族ハ神ト民國ノ古事本紀ノ事  
吾族ハ神ト民國ノ古事本紀ノ事  
此ノ為ニ事ハ古事本紀ノ事  
吾族ハ神ト民國ノ古事本紀ノ事

甲二月

本通ニ事ハ

一 奉元元年八月廿四日國本通

青月十二日私書  
万石之石大  
使名探別原  
以年達區十  
只付年有十  
吾國原度有  
本國本通一  
本國本通一



長久保長平の御書  
長久保長平の御書

計月分 有

海江主膳丞

王國用御書

右國用

一 奉中元申平三月廿七日付国在稿

正同用御書

右在稿

奉行同用御書

口下体

坊寺

本國及行宣司公使候之御書  
長久保長平の御書  
長久保長平の御書  
長久保長平の御書

三月廿七日

長久保長平

長久保長平の御書



# 説明ターゲット

裏表紙の裏は糊付けの為、  
撮影不可能

